

執筆上の注意

2019年10月15日一部改定

◆表題・要旨・キーワード

- (1) 所定の「執筆テンプレート」に、表題、著者名、所属、要旨、キーワード、その他所定事項を記入する。
- (2) 英文原稿の場合、和文の表題、著者名、所属、要旨等を併せて提出する。ただし、日本語を母語としない著者については、これを適用しない。
- (3) 表題、要旨、キーワードには、宣伝に類する語句を入れてはならない。
- (4) キーワードは論文の内容を的確に表現する5語程度の単語もしくは句を選ぶ。英語で名詞単数形、小文字表記とし、原則として、略語、記号、元素記号は用いない。できるだけ限定された意味をもつ語又は句を選ぶ。
そのほか、特定の語については本誌の慣習に従うこと（表1参照）。

◆本文執筆要領

- (1) 原稿の書式（文字の大きさ、フォントの種類等）は、所定の「執筆テンプレート」に従う。
- (2) 和文原稿は文化庁の「公用文の書き表し方の基準（資料集）」により、ひらがな交じり口語体とする。用語はJIS用語及び各学会制定の用語を用い、翻訳不能の学術語、日本語化しない固有名詞に限り原語のまま用いる。数字はアラビア数字を用いる。
- (3) 英文原稿の場合、行末の単語にハイフンを使用せず、必ずワードラップを行う。
- (4) 本文の大見出し、中見出し、小見出しはpoint systemとし、1., 1・1, 1・1・1, …などと書く。
- (5) 単位はSI単位を使用する。例えばCi, rad, remでなくBq, Gy, Svを使用する。
- (6) 核種の質量数は ^{60}Co , ^{131}I のように元素記号の左肩につける。
- (7) 引用文献は番号に片かっこをつけ、本文の右肩につける。
- (8) 文献でない備考、注などは、*や注を右肩につけ、原稿の下部に脚注をつける。

◆図・表

- (1) 図及び表は、原則としてそのまま画像データとして使用できるように著者が作成する。この場合、線の太さ、文字の大きさ及び図の複雑さをよく考慮する。
- (2) 図及び表の説明は、原則として英文で書く（和文の「資料」を除く）。
- (3) 図及び表の挿入箇所を原稿中に指定する。

◆引用文献

- (1) 引用文献は次の形式で原稿の最後の一括する。
なお、以下の点に気をつける。
 - (i) 著者名が5人以上の場合、4人分の著者名を記載し、5人目以降をet al. で省略する。
 - (ii) ページ数は最初と最後のページをハイフンで結んで示す。

[雑誌] 著者名, タイトル, 雑誌名, 巻数, ページ (西暦発行年)

(例)

- 1) Sato, Y., Ishizu, H. and Yamada, T., Standardization of ^{14}C by CIEMAT-NIST method and TDCR method, *RADIOISOTOPES*, **65**, 1-5 (2016)

[単行本] 著者名, 書名, ページ, 発行所, 発行地 (西暦発行年)

(例)

- 1) Carroll, J. and Lerche, I., *Sedimentary Processes: Quantification Using Radionuclides*, pp. 72-75, Elsevier Science, Oxford (2003)

表1 キーワード統一表

セシウム	caesium
東京電力福島第一原子力発電所事故	Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Plant Accident